

平成27年度第2回花巻市立図書館協議会 会議録

○日 時 平成27年11月6日（金）午前10時00分～午前12時00分

○場 所 花巻市立花巻図書館 会議室

○出席者 (1) 委員

小山田厚委員、和田政男委員、市川浜委員、高橋則子委員、
佐々木さつき委員、日下明久美委員、坂本知彌委員、佐藤三恵子委員、
白藤祐三委員、佐藤寧委員（計10人）

(2) 図書館長

佐々木昭司花巻図書館長、多田広美大迫図書館長、小原茂隆石鳥谷図書館長
菅野和東和図書館長

(3) 事務局

城守敏浩花巻図書館副館長兼管理係長、吉田郁子主任主査兼業務係長

○欠席者 1名（門馬優子委員）

○傍聴人 1名（岩手日日新聞社 横島正紀氏）

●次第及び協議内容等

・会議成立の報告（城守花巻図書館副館長兼管理係長）

・委員11名中9名出席（佐藤寧委員は遅参）。出席委員が構成員の過半数を超えている
ので、図書館協議会規則第7条により本会議が成立することを報告。

1 開会（城守花巻図書館副館長）

2 あいさつ（佐々木花巻図書館長）

3 議題（協議会規則により会長が議長となる。）

（1）平成27年度花巻市立図書館の事業実施状況等について・・・資料1

・平成27年度花巻市立図書館事業実施状況について、花巻図書館から順番に説明。
花巻：吉田主任主査、大迫：多田館長、石鳥谷：小原館長、東和：菅野館長

（坂本知彌会長）

ただ今、実施状況について説明がありましたが、質問等ございませんか。せっかく実施したのに、人数が少ないのをすれば、石鳥谷でこんなに多くと思うのもあったりとバラツキがあると思うのですが。

（白藤祐三委員）

石鳥谷の「実はすごい匠展」の平成26年度の振り返り作品展は、どんな内容ですか。

（小原石鳥谷図書館長）

昨年の協議会で1か月というのは短くてもったいないのではとのご指摘をいただきました。26年度にやったものを27年度の前に全部出して見せようということで、平成26年度に実施した部分を展示したものです。

(坂本知彌会長)

あとはよろしいですか。では、ブックスタートは前は11か月でしたが、それが4か月の赤ちゃんになって、赤ちゃんの反応はどうですか。

(吉田主任主査)

11か月くらいですと結構動きますが、4か月ですとまだ赤ちゃんですので、お母さんにダッコされながら一緒に静かに見ていただけます。

(坂本知彌会長)

見ていますか。

(吉田主任主査)

赤ちゃんも真剣に見ていただけます。

(坂本知彌会長)

11か月ですと反応があつておもしろいと思ったのですが。4か月でもしっかりと見ているというのは伝わるわけですね。

(吉田主任主査)

お母さんとか一緒に付いてきた方もゆっくりお話を聞いたり見ることができるという利点もあると思います。

(坂本知彌会長)

それで配布率が高まったというのはすごいですね。あとご質問がなければ次に移ってよろしいでしょうか。(2)図書館サービスの在り方の検討状況について、ご説明願います。

(2) 図書館サービスの在り方の検討状況について・・・資料2

・(2)図書館サービスの在り方の検討状況について、佐々木花巻図書館長から説明

(坂本知彌会長)

図書館ボランティアを学校でされている佐藤委員さんがいらっしゃるので、図書の整理をしてくださった、いろいろなことを実際の立場からお話をいただければと思います。

(佐藤三恵子委員)

石鳥谷小学校の図書室は、本棚の分類が天井からぶら下がっていたのですが、表示札との関連性がなくてお飾りでした。図書整理が必要なことは私も感じていましたし、菊池桂さん(石鳥谷図書館主査)からの指導もあったのですが、分類ラベルも正しくない。どうしてこういう分類ラベルになっているのだろうというのも多い状態でした。そういうことで目的の本を探しやすい図書室にしてあげたい。子供たちが見たい本を探せるようにしたいということで、今年は夏休みに石鳥谷図書館の桂さんに指導に来ていただき

て、親子参加型の図書室整理作業をしようということで、PTA会長さんとか図書ボランティアや親子、先生方にも加わってもらって、30名で本をまず全部出して、本棚を拭いて、いらない本は捨てて、桂さんが新しく決めてくれた本棚の場所に収める作業をしました。今は新しい分類でのラベルの張り替えや本の背のタイトルを印字し直しているのですが、実際13人図書ボランティアがいますが、読み聞かせだけしたい人も多くて、こういう図書室整理作業を地道に熱心に取り組む意欲が夏休みに全部入れ替えたところで終わってしまっていて、私は手をかけたから最後までやらなければと思っているし、そういう気持ちをまとめていくのがすごく難しくて、図書ボランティアの手におえる仕事じゃなかったというのが実際の気持ちです。一覧表を見ると、石鳥谷小学校はシステムが入っていることになっているので、非常に先進校に思われるかもしれません。実は最近分かったのですが、私も桂さんも検索ができないことが不思議だったのですが、本があるかないかわからない。どうしてこうなっているのがわからなかつたのですが、10月中旬にシステムを入れた岩手教文社の方が来て、パスワードで入って台帳を見ると一部のデータは出版社名、著書名が入っているのは有るけど、ひどいのは本の作品名とバーコードだけとか、そういうシステムなのです、実状は。何のためにパソコンが入っているかというと、貸出、返却ができれば良し、ひとりの児童が何冊借りるのかわかれれば良し、貸したけれども返したのがわかれば良し、そういう程度の使われ方をしているというのが最近わかりました。子供たちは探したい本がある時は、タイトルだけでいいなり探そうとするわけです。本来であればパソコンで調べて有るからそこの番号、分類された所に行こうとするのが、私たちが考える、図書館の人が考えるシステムの運用だと思うのですが、全然そういうことではない。ラベルを張り替えたので台帳を変えなければならないと思うのですが、なにせすごい冊数なんです。正しいのもある。正しくないものもある。それを照合させる作業をするボランティアはもう限界にきている。ラベルも今年中にできるかわからないし、図書室に蔵書の痕跡はあるけれども学級文庫に行っている本もある。そういうものも全部、花巻管内の共通のルールの分類にしてやがてデータを共有する時代が来た時に使えるような状態にすることまで目指すとすごい課題もあるし、一体誰がやるんだという感じです。やりかけてしまったので最後までやりたいが、本当にやれるかどうか、日々不安というか、朝9時半から午後3時まで図書室整理に行ったりします。すると子供たちがどのように図書室を使っているか、機会があって、業間に並ぶわけです。本を返却するために。するとシステムのデータが多いせいなのか、作動が遅いのですごく並びます。やっと返してすぐ借りてまた行かなければならぬ。本はこの辺だったなあと入れてしまえば良い。上に載せたりとそういう感じなんです。つらくて、私は図書ボランティアですが、自分で判断できないから度々図書館に電話をかけて桂さんに聞いています。小学校に専任の司書の方がいてくれたら良いなあと希望ですが。それが無理だったら1週間に1回でも何時間でも司書という力を持った方が、私たち図書ボランティアを指導してくれて、児童の様子、図書室の様子を継続

的に見守ってくれる仕事をしてくれる方が居たら、どんなに良いだろうと思っています。
(坂本知彌会長)

はい、ありがとうございます。赤裸々に教えてくださいました。本当に大変だと思います。これで方向性が見えたような気がするのですが。学校の先生方、思っていても時間がなくて手が出せない現状だと思います。せっかくシステムが入っているのに、それなりの活用ができていないのも問題だと思います。それらを解決するには、やっぱり他の人的な支援しかないと思うので、そのへんについては、28年度の課題が大きく、はつきり、ぱっちり見えたかなあと想いますので、しっかり受け止めていただきたいと思います。図書館サービスの在り方のいろんなアンケートの結果をふまえてのご意見、ご質問ありませんか。

(佐藤寧委員)

2点ですが、先ほど介護老人施設の方の移動図書館車の件でデイサービスを中心のことですが、前回もお話したと思いますが、実際、ご高齢の方で介護対応になる方で、デイサービスに行きたくないという方がいます。理由は幼稚園みたいで幼稚で歌を歌ったり絵を描かされたり非常に屈辱的で嫌だ。自分で好きな本を読みたい。デイサービスに行くと本を読めるとなると非常に売りとなって、もうちょっとそういう方々が解消できるようにアピールすると、デイサービスだって知的な場所だという売りができるのではないかと。ぜひ進めていただいて、そういう方々に恩恵を与えていただければと思います。2点目ですが、小中学校の図書室のお話がありましたが、もう子供たちの読書啓蒙とかハード的なものはやり尽くされていると思いますが、やはり一番の根幹は前回も言ったのですが、学校の先生方、本を読まないので、学校の先生方が一番本を読まなければならぬ職業のはずなのに、テクニシャンとして忙し過ぎて、どうしようもない父兄もいますし、先生方、大変だと思いますが、先生にそれがないと子供たちに影響を与えられない。一つの柱として、PTA父兄ですね、学校の先生も読書の啓蒙を入れて、もう少し深く子供に影響を与えるようなことをやらないと。読む人は読むし、読まない人は一生読まないので、学校の先生がアピールするのが学校で読書好きが生まれる基本となると思うので、ぜひ先生方にいっぱい本を読んでいただきたいと思います。

(和田政男委員)

学校の先生が本を読まないのはそのとおりです。うち（湯口中学校）でも朝読書の成功の秘訣は先生が生徒と一緒に本を読むことです。先生が本を読む姿勢を見せることを私も先生に呼びかけています。先生方、忙しくて時間をとれないのですが、10分でも15分でも先生が本を読むのを生徒に見せることが大きいなあと想います。学校図書館について、今、佐藤委員さんからお話がありましたが、まさにそのとおり。今回、学校図書室のアンケートを実施して集計をまとめてくれたというのは、大きな前進だと思います。私も自分の学校の図書室の様子はわかりますが、他の学校の様子はわかりませんでしたので、こういう状況なのかと一覧表を見て良くわかりました。本当にありがとうございます。

ことだと思っています。取り組みの方向のなかに図書ボランティアのネットワークを構築することが今後の方向性としてありますので、これをぜひやっていただきたい。あとは、ボランティアの育成ということもあります、ネットワークを利用して情報交換の場をつくるだけでも大きな効果があると思います。あそこの学校のボランティアさんはこういうことをやっている。お互い情報交換するだけでもすごく盛り上がると思いますので、これもぜひやっていただきたいと思いました。図書ボランティアの各校の様子を見ると、ある学校もあり、無い学校もある。うちの学校の様子を見れば、図書ボランティアの方々がいなければ、図書室の利用は半減するだろうと思います。そのくらい図書ボランティアの方々の活動は大きいです。うちの場合は地域の方々が、かつての卒業生の親が中心になってずっと継続してもう10年以上携わっていただいている。ですから活動も毎年継続して行われていて非常にありがたい状況なんですが、学校によっては本好きのお母さんがいる時は盛り上がるけれども、その方が卒業すると立ち消えになることもあります。ですからPTAに頼らずに、地域の中に学校支援していくボランティアの組織があれば、湯口地区みたいに継続していけるだろうと思います。そういうのも図書ボランティアの交流があれば、どういう様になれば良いか浸透していくことで、ぜひ交流の場を設けていただきたいと思います。それから湯口中学校が今新築工事をやっておりまして、来年の4月に完成する予定ですが、新しい湯口中学校には新しい図書室ができます。隣にコンピューター室ができますが、壁を取り払って図書室とコンピューター室が一体とできるような、いわゆるメディアセンターというようにしたいと考えていました。せっかく立派な施設ができるので、できるだけ地域にも開放したいと考えていました。ところが、メディアセンターの整備には、教員は忙しくてタッチできないというか、ましてや地域に開放する図書室にはなり得ません。そこで湯口小学校の先生と二人で、教育長のところに行って、図書館司書を配置できないかお願ひしてきました。「できない」と言われました。試験的でもいいから湯口を突破口にして実績を積み上げて良ければ各地区になるとなるんでしょうけれど、とてもそんな予算はないということで無理でした。新しい図書室を地域に開放したい、そのための整備をしていきたいという希望がありますので、予算が必要となります。図書館司書の配置は難しいと言われましたので、何か補助金事業を引っ張ってきてそれでもってやっていこうと。補助金事業を引っ張ってくるには、協力をお願いしたいとお願いしてきました。来年は何らかの補助金事業を引っ張ってきて、その予算で1年か2年やってみたいと思います。図書ボランティアといつてもお金がかかります。全く無償何も無しではなかなか続かないと思います。今は、うちの副校長が工夫してお茶菓子程度を図書ボランティアが活動する時には用意して、雰囲気良く活動できるように気を配ってくれていますが、予算がないとやっていけないと思います。それが教育委員会でつければ良いのか、図書館でつけねば良いのかわかりませんが、図書ボランティアを育てるためにも予算が必要だと感じています。最後に、図書室のコンピューターシステムですか管理システムですね。見れ

ばエクセルで管理したり専用ソフトで管理したり、いろいろまちまちのようですが、これも何が良いのかということを専門的に見極めて、それを全部の学校で導入すべきではないでしょうか。とりあえず、うちの学校は新しく来年図書室がオープンする時には、管理システムは何が良いのか専門的視点から決めていただいて、それを委員会サイドに働きかけてまず入れてほしい。そしてそれが良しとなったら、どの学校でも同じシステムで管理できるようにし、やがてはそれが新図書館とネットワーク化できればと。図書館で本を検索すると、この本はあそこの学校にありますというシステムになれば良いのではないかと。そのためには、3年から5年と時間はかかるかもしれません、将来、花巻市の図書館ができる時のことと想定して、今から少しずつ準備していただきたいと思います。大迫中学校もまもなく新築されます。学校が新築になる時は良いシステムを入れるチャンスですので、今から準備してもらいたいと思います。

(坂本知彌会長)

ありがとうございます。学校現場からのお話もありました。花巻市はちょっと変わっていて市立図書館は市長部局なんです。もちろん学校図書館は教育委員会ですし、そのへんのところが別々で不具合が生じないかと思いますが。そこを不具合が生じないようにやっていくのは人の知恵だと思いますので、教育委員会と市長部局がうまく連携を図ってできれば良いと思います。学校図書館司書が配置されないのは、すごく残念なことですね。何か方法があれば良いと思いますが、足りない部分を補完するというのも図書館が何かの形でできれば良いと。いろんな課題が二人の話の中から見えてきたように思います。よろしくお願いしたいと思います。

(和田政男委員)

補足になりますが、図書館司書は、学校の教員は文部科学省から基準があつて配置になると思いますが、国でも県でも司書の配置は面倒を見てくれますが、やるとすれば、市独自となります。

(坂本知彌会長)

ほかの市町村では、司書が回っているところもありますが。

(和田政男委員)

市独自で予算をつけて配置しているところは、いくつかあると思います。

(坂本知彌会長)

そういうところの地域は能力がすごく高くなっているという数値があれば、花巻もすぐやるのかと思いますが、なかなかそこは難しいところですね。他にございますか。

(白藤祐三委員)

アンケートを実施したようですが、この最後の記述集計表に保育園とか幼稚園の要望や意見がありましたが、ぜひこの内容をもっと吟味して、吸い上げていただいて事業の中に反映させていただきたいと思います。読書の基本は、幼児期それから小学校の低学年にあると私は思っています。そういう意味で随分学校に期待する部分はありますが、

それ以前に図書館が非常に重要な位置に立っていると思います。図書館でもそういう部分を十分に意識していると思いますが、特に力を入れていただきたいと思いますし、普及のために工夫していただきたい。私もこの図書館に最後に勤務いたしましたが、その時期2年間の間に絵本にすごく興味を持ちまして、以来、集めたり読んだり勉強しておりますが、絵本でも、私は特に絵に魅かれます。絵から目に付いたところからストーリーに入っていく傾向があるのですが、そういう意味で大型絵本とか大迫でやっている大型紙芝居、そういうものは非常に大きなインパクトになるツールになると思いますのでそういうものを有効に活用していただきたいと思います。特に大震災以後、絵本の役割が皆さんに評価されていますが、そういう点も見直していただきたいと思いますし、花巻でも図書館の活動の中で、大型絵本とか紙芝居による読書の普及に利用していただければと思います。もう1点、先進事例調査というので、北上市と一関市の調査とありました。普段、新聞を見ていて、一関周辺の図書館活動、すごく活発だとの印象が強いです。図書館も多いのですが、歴史的な背景もあると思います。そういうところも職員の皆さんにも勉強していただいて学ぶべきところは学んで、これから活動に役立てていただきたい。

(坂本知彌会長)

他にございませんか。その他の①平成28年度図書館運営に関する要望等についてです。事務局から提案がなければ、皆さんから聞いてよろしいですか。それではお一人ずつ要望について伺いたいと思います。来年度の予算もあります。

(3) その他

①平成28年度図書館運営に関する要望等について

(佐藤寧委員)

特にございません。私はどちらかと言うと、来るべき新しい図書館のコンセプトの方に興味があるので、活動については良くやっていると思うので特にありません。

(白藤祐三委員)

先月と今月11月20日、同じ内容ですが、鳥取県の知事を務めた片山善博さんが「図書館は地域の知の拠点」という記事が載っています。図書館の存在意義はここに要約されていると思いますし、佐藤委員さんと同じように新しい図書館に期待するものが大ですので、これが唯一の要望です。

(佐藤三恵子委員)

先ほどの継続した話題になりますが、先生がおっしゃるように司書が無理とするならば、学校の先生から図書ボランティアの指導を受けるというのはどっちの方向に行ったら良いか難しいし、お母さんたちだとまちまちの考えもあって、ひとつにしていくのは難しいです。やっぱり図書館の方が月に1回でも私たちの輪に入って指導してくれるとか、こういう方向に行きましょうというような指導をするような、忙しいと思いますが

派遣していただきたいと思います。

(坂本知彌会長)

しっかり受け止めていただければと思います。

(小山田厚委員)

8月の推進計画の会議でもお話ししたことと先ほどの中学校の校長さんが話したことと重複するのですが、やはり、見通しを持ってシステムの共有化を進めていただきたいと思います。

(和田政男委員)

来年度の予算に関わってくるのであれば、各学校の図書ボランティアの支援とか育成とか、そういうものに予算をつけていただければと思います。

(市川浜委員)

保育園の園児たちを対象とした読み聞かせを石鳥谷地域を対象に行っているのですが、やっぱり小さい子供たちが目をきらきらさせて、また来てねとあの姿を見ると、白藤委員さんが話したように、小さい子供からの読書に対する必要性を強く感じております。そういう面での取り組みが必要であると思いますのでよろしくお願ひいたします。

(高橋則子委員)

来年度の予算に結びつくとすれば、学校への支援の輪が広がってほしいと思います。先生たちをあてにしていると先生たちは転勤しますので、いいところ2年3年なんです。先生が変われば何もできなくなるというのが学校の状況です。私たちも地域のボランティアとして長年入っておりますが、あとは校長先生の姿勢です。地域の方々を受け入れてくださる校長さんと、地域の方々ではなく私たちでやりますのでいいですという方もいらっしゃるのです。そういうところには地域の方々はあまり入っていませんので、悩みを抱えているのだろうなと、今、いじめの問題など出てきていますので、地域の方々の協力がないことには、そういうことも解決できないと思います。学校の体制だけ言うと申し訳ないと思いますが、そういったことを感じています。

(坂本知彌会長)

教育委員会にも聞かせたいお話をしました。ありがとうございます。

(佐々木さつき委員)

今、市川委員さんがおっしゃったように、小学校の読み聞かせやボランティアを大切にしていかなければならないが、もっと小さい保育園、幼稚園、さらにブックスタートをもっと手厚くして、小さい時から本に親しめる環境を整えていかなければ感じながら、そして図書館にもお手伝いしていただければと思います。4か月の子供に読み聞かせはと坂本会長がお話をしましたが、本当に一生懸命に見てくれます。お母さんが赤ちゃんをダッコして穏やかな気持ちで一緒に本を見るという気持ちが赤ちゃんにも通じるし、お母さんも本をとて見ようかという気持ちにつながっていくと思いますので、ぜひブックスタートはこれからも続けてもっともっと広げていただきたいと思います。

(日下明久美委員)

移動図書館サービスのことで、図書館車を1台減らすということでしたが、そうすると東和と大迫で広範囲に亘ってサービスするわけで廃車の計画であれば順調に進むようによく考えてももらいたいと思います。介護施設のステーションを増やすということだったので、大活字本や老人向けの紙芝居があるのですが、そういう図書の整備を重点的にやっていただきたいと思います。アンケートについては、皆さん忙しい中でも書いてくれたと思うので、アンケートを取るだけでなく、要望などに対してこういうことはできそうですとか、アンケートを実施した側からの働きかけが大事だと思います。

(坂本知彌会長)

貴重なご意見、たくさん頂戴しました。限られた予算だと思いますが、ハード面は今お休みなので中身の充実をお願いしたいと思います。そうすると新しい図書館ができるかも、持つていけるですから、ドンと予算をとってもらってドンと買っていただかようよろしくお願ひいたします。

②立地適正化計画の概要について

・小松都市再生室主査から、意見交換会資料「立地適正化計画を活用とした今後の『まちづくり』にむけて」により説明した。

(坂本知彌会長)

ありがとうございます。ご質問ございますか。

(佐藤寧委員)

立地適正化計画は何回か説明があったのですが、エリア設定などはわからなかつたのですが、今日聞いてなるほどと少し前進しました。2点話したいのですが、4ページの下のところですが、3つ有って、医療機能をまちなかに確保する、4つのサービスの機能を維持する、あとは国が進める計画に合致するということです。上の2点についてですが、私、医師をやっていて花巻市医師会の理事もやっているのですが、何回か花巻市と医師会でもこの件について話し合ってですね、あまり市長の考えを批判しないというのが理事の間でコンセンサスがあるのですが、今、理事ではなく個人的な意見としてですが、そもそも花巻厚生病院と北上病院が合併したのは、花巻と北上で急性期の機能の病院は1つという県の方針があるので中部病院になったうえは、花巻には高度救急の病院はないということは外せない事実だと思います。だけど花巻市内に救急病院がほしいというのは市長の要望だと思いますが、総合花巻病院はこれからは回復期の病院としてやっていくしかないので、救急車を受け入れる病院にはならない。だから、12ページのところに図があります。花巻病院の後藤先生がこの間指した絵をおぼろげにした絵だと思うのですが、横の方に介護付高齢者住宅と書いていますが、花巻病院としても今後は回復期として生きる。中央病院からの急性期が終わった人を1か月くらい入院させて、あとは介護か在宅に戻すというそういう橋渡しの病院になる。実際、現在も東北大学か

らも岩手医大からも医者の派遣はないです。だから、今後の市の救急病院は市の中心には無い。だから、市長の考えもあてがはずれるとと思うので、そこが1つ問題であると思います。だから、県内の医療をコンパクトにして機能を分担して効率良くするというのには逆らえないと思うので、花巻市中心部の救急病院は叶えられないと思うので、そこが現実とずれているのが1つです。2つ目の市の生活拠点サービスの機能を維持するということで、医療、生活、商業とあります、文化という言葉がないのが非常に気に入らないと思います。やはり文化は余暇でお祭りじゃなくて、人間が生きていくうえで非常に大事なことですので、市のサービスで文化がないというのは文化を軽視していることなので、これはちょっと聞き捨てならない。ちゃんと花巻市が培ってきた文化をきちんとコンパクトシティの流れに合わせて集約してもらいたい。文化の維持を必ず入れないとまずいと思います。食べて寝るだけではないですから、人間は文化してこそなんばというのが人間ですので、文化がないと人は逃げますから。最終的にこの課題の解決だけだと将来的に花巻には人が居なくなると思います。やっぱり文化の象徴があって、花巻は自分の故郷とそこで文化活動してきたという積み重ねがあると人は逃げないと思う。いくら、良い病院があってもスーパーがあってもダメです。文化がないところには何も残らない。だから、課題解決のところには、文化というが必要だと思うので、ご検討いただければと思います。

(坂本知彌会長)

ありがとうございます。貴重なご意見を頂戴しました。よろしく検討してください。

(小松都市再生室主査)

その辺いくらくかお話していいでしょうか。佐藤先生がおっしゃったように文化のところにはお話されたようなところがあると思います。私の説明の中でかなりはしょらなければならなかつた部分で、なかなか伝えられなかつた部分が1か所ありました。先ほどコンパクトシティの中での文言として出しそびれたのですが、都市機能の誘導区域、先ほど国支援を受けられるエリアというの法律用語では、都市機能誘導区域というエリアの部分ですが、実はわれわれもそこを設定するにあたってどこが良いのかという話がありました。既成市街地であれ今の設定しているエリアというのは、歴史的にもずっとそこに人が住み続けているエリアもあります。当然そこに対しては公共投資というのも他の地区に比べれば圧倒的に投下されている地区もある。したがって利便性は他の地区からはるかに高いはずで、そこを生かさない手はないだろうと考えています。したがってそういう所は、むしろ文化的な水準というのは特にも集中して高い部分ではないかなというところもあるので、そういう部分を考えながら文言に加えることを考えさせていただきたいと思います。実際、我々もまちづくりの部分の文言を選ぶといいますか、計画というのが国土交通省の計画もあるので、生々しいところも出さなければというのも正直なところです。ただ、おっしゃるとおりそういった部分もないと、これから対応していくためには、インセンティブに働くかというのもあるでしょうから、

貴重なご意見をいただいたと思っております。ありがとうございます。

(坂本知彌会長)

よろしくお願ひいたします。

(日下明久美委員)

9ページの花巻図書館の移転について、矢印で期間が示してありますが、前回聞きそびれたのかわかりませんが、具体的にこの6か年の間に掛かっているけれども、後ろの方ですということですか。いつから移転になるのか、正直知りたいので表の見方を教えていただきたいことと、立地適正化計画の仕組みの中で、白い部分は国からの支援は受けられるけれども、それ以外の部分は支援をうけづらくなるということですか。花巻と石鳥谷の白い部分は国からの支援は受けられるけれども、その他の所は何を整備する時も受けられにくくなるということですか。

(小松都市再生室主査)

私の説明が上手でないものもありますが、まず1つは、何を選択するかによるのですが、例えば補助事業であり、交付金事業であり、あるいは独自事業でもそうなのですが、この立地適正化計画制度を活用した場合にあってのエリア設定としては、今、おっしゃったように花巻のエリアがまず該当します。実際に立地適正化計画制度をもって直接事業を行うものではありません。全国的な流れの中では、立地適正化計画制度をつくりました。それをつくったことによって、国土交通省が用意している様々な支援策に、例えば補助率が上がるとか、優先的な配分がなされるとか、そういう取り扱いの計画と捉えていただきたいと思います。大迫エリアであり、東和エリアであり、そういうところに対するメニューというのも、実は全く別な制度での部分でもあって、我々もそういった部分の制度も活用しながらの都市づくりは必要だろうと思っております。ただ、今回メインに考えている部分では立地適正化計画制度の部分でありますので、それだけの部分で見れば残念ながら大迫、東和部分はエリアとしては設定できないという話であったというふうに捉えていただきたいということで、必ずしもそれ以外はすべてダメですということではありません。図書館については、これだけの矢印しかお示しできないのが全くの事実でありますし、何年度にこれはしますというような確定したものは今の段階ではございません。5年スパンで事業の見直しを行いますが、28年度から32年度までが1回目の5か年の1クールととらえる中で、病院の移転に伴って市からの財政出動もあるわけなんです。そこと図書館の建設というのも当然財政出動の影響が大きいですから、そこを同時並行はまず無理だらうと今思っているところです。そのなかにおいて、矢印がくいこんでいるところがありますが、國の方の制度も5か年ということで、2期目の33年からスタートするのかという話になりますが、実際にやる場合に、建てるものでも1年や2年で建つものではないわけです。もし、ハコ物ということになれば、その段階での準備行為として、どういう内容にするか、どういった規模にするのか、前もって決めていかなければなりません。昨年の12月でも、まちづくりの方向性のなかで

もちょっと書き込んでいましたが、今、全国的に見ると図書館に限らず、公共施設を単体の1つの目的での建て方はなくなっています。よく聞く複合施設ですが、ある程度多機能型というものが必要になってくるだろう。そのうえで昨年12月にこちらで申し上げたまちづくりの方向性でお話した中では、商業施設も検討の材料として含めていかなければないと投げかけております。それらも今の段階では否定せず、どういった多機能型、複合型の取り扱いができるかも含めての検討をこれからやっていかなければならない。今の段階でこの方向性ですという決め方をするのではなく、図書館側からすればどういう図書館で今後運営していくのかが一番大事な事になり、それとタイアップするはどういう内容がふさわしいのか、そういうものを考えていくことになると思います。今の段階で具体的に何年から何年まで計画をして、これから調査してということをはつきり決めていない状況です。ただ、およそその段階としては、このくらいのスパンで考えていくことになるのではと、目算で構想として出しているものです。

(坂本知彌会長)

およそその線だそうです。複合型というのは、市民懇話会でも答申しています。早く建ててほしいというのが一番の声だと思います。でも時期を急ぐあまりに中身が充実していかなければうまくないことですから。高望みしても良くないことだけど、悪くない方向に行ってほしいと思うところです。あと、この件に対するご質問は。

(市川生涯学習交流課長)

図書館について、流れ的に去年もお話したのですが、昨年度図書館の実施設計、設計段階に半分入った形になったのですが、その段階では厚生病院跡地に建てるという計画でした。ただ、厚生病院からヒ素が出てストップしたわけですが、そのうちに国の立地適正化計画、つまり街中にコンパクトに人を集めましょうという制度が出てきました。これを活用しながら花巻市全体を考えていきましょうという流れになりました。良いのか悪いのか、図書館が止まったなかで全体を見直しましょうという流れになりました。そのままいっていれば、去年、今年も設計があったと思いますが、来年、再来年くらいには建てる形になって、29年か30年くらいにオープンという感じだったと思います。それでもそれくらいのスパンと言いますか、急いでもそのくらいなので、それほど時間が伸びているわけではないのですが、去年のままスタートしていてもやはりオープンは、2年、3年先だったと思っています。今のところ申し上げましたとおり、まなび学園と花巻病院が移転した跡地周辺だろうなという形になっております。そこで、皆さんからご意見をいただきながら、単体ではない複合施設になると思いますが、民間も活用する形もありますが、そのへんも含めて詳細はまたやり直しということになっています。できるだけ急ぎたいと思っていますが、あまり急ぎすぎて変なものというのもダメですし、各市町村の図書館も結構複合施設で建てているところもありますし、そういうものを参考にしながら、これから2年から3年かかると思います。ご意見を伺いますのでよろしくお願いいたします。

(坂本知彌会長)

ありがとうございます。それでは今回の議題は終わったと思うので、大きいその他を事務局にお渡ししたいと思います。

4 その他

なし

5 閉会（城守花巻図書館副館長）

